

大空 —放哉だより—

第62号 2016.10.5 発行:小豆島尾崎放哉記念館

尾崎放哉Q&A



Q1. 放哉さんはなぜ土庄（小豆島）に来たの？

A. 高校時代からの友人であり、俳句の師匠である萩原井泉水に紹介され、小豆島にやってきました。井泉水は以前小豆島を訪れた事があり、その時に西光寺住職・杉本玄々子や井上一二と知り合いました。その縁を頼りに、小豆島へやって来ました。※以下↓、放哉が井泉水に、どこか住める場所が無いかに依頼しているハガキの内容です。

大正14年7月31日付 井泉水あてハガキ（一部を抜粋しています）

- ・淋しい処デモヨイカラ、番人ガシタイ。
- ・近所ノ小供ニ読書ヤ、英語デモ教エテ、タバコ代位モライタイ。
- ・小サイ庵デヨイ。
- ・ソレカラスグ、ソバニ海ガアルト、尤ヨイ、・・・済ミマセンガ、タノミマス、・・・

Q2. 放哉さんの家族は？

A. 父・信三 35歳、母・なか 29歳の時に放哉は生まれ、6歳上に姉・並さんがいました。明治44年、放哉26歳の時に坂根馨19歳と結婚しました。子どもはいません。朝鮮の保険会社を辞め、日本に帰って来てから別居しました。その後、亡くなるまで約2年半、会う事はありませんでした。

Q3. なんで土庄でたくさん句を作ったんですか？

A. 放哉は海が好きで、小豆島の事をとても気に入っていました。病気が進行し、俳句仲間京都の病院に入院するよう勧められても頑なに拒んでいました。そこには、最期はここで迎えたいという思いがあったからです。

約2年間いろいろなお寺を渡り歩き、やっと自分に合った居場所『南郷庵』を見つける事が出来ました。俳句仲間や友人、島の人々に物心両面で支えられ、落ち着いた生活が出来るようになった事で、より一層集うして俳句を作れるようになりました。小豆島では約8ヶ月の間に、2,721句作りました。

Q4. どんな句を詠みましたか？

A. 小豆島で作った代表的な句では、「咳をしても一人」「障子あけておく海も暮れ切る」「入れものがない両手で受ける」「眼の前魚がとんで見せる島の夕陽に来て居る」、が挙げられます。特に「咳をしても一人」は句碑になっている数が多いので、「尾崎放哉」と言えばこの句、と思われる人も多いと思います。

これらは先日、小学4年生の皆さんからお寄せいただいた質問です。まだまだありますので、次号に続きます。疑問・質問、気になった事は何でも聞いてくださいね。いつでもお待ちしております！



10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

今月のお茶会は石井鈴代先生です。都合により変更しています。

- 放哉だより発行日
- とのしょう広報発行日
- お茶会日
- 休館日
- ☑図書館休館日

10月8日から秋会期が始まります。
瀬戸内国際芸術祭2016、今会期が最後！また新たに、4つの島でアート作品が公開されるようですね。《芸術の秋》を楽しみましょう。